

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	複雑系小委員会	主 査 名：朝山秀一
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術員会	委員長名：河村 廣
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	21 世紀に知の革命をもたらすものと期待される複雑系科学を用い、建築を中心とする人間、都市、社会、環境の仕組みを明らかにして、世紀末の様相を呈するそれらをリノベーション或いはイノベーションする方法を提案する。	
委員構成 (委員名(所属))	朝山秀一(東京電機大学、主査)、藤井晴行(東京工業大学、幹事) 奥 俊信(北海道大学) 河村 廣(神戸大学) 椎野 潤(早稲田大学) 新宮清志(日本大学) 瀧澤重志(京都大学)、谷本 潤(九州大学)、堤 和敏(芝浦工業大学)、 (主査、幹事、以下五十音順)	
設置 WG (WG 名: 目的)	複雑系科学研究・広報 WG: 複雑系科学をより多くの人に身近なものとするための啓蒙活動、イベント、出版を行うことを目的とする。	
2004 年度予算	240,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<ul style="list-style-type: none"> ・2004 年度第 1 回複雑系小委員会(2004.07.02) ・科学研究費補助金「複雑系科学による人間・環境に適応する建築・都市・社会のデザインシステム」ワークショップ(2005.02.22) ・2004 年度第 1 回複雑系科学研究・広報 WG(2004.07.02)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出版企画書「複雑系と建築・都市・社会」の未回収部分の原稿回収し、WG、小委員会の審議を得た後、2 章に「誘導都市」、3 章に「フラクタルに基づく建築骨組」を追加した。最終編集方針を確認し、著作権の許諾を得て、査読とそれに基づく最終原稿を作成、本年度最終の本委員会で承認後、3 月 31 日付けで出版。 ・本小委員会の前主査河村廣委員(神戸大学)を研究代表者として構成した複雑系科学研究グループ が得た科学研究費補助金「複雑系科学による人間・環境に適応する建築・都市・社会のデザインシステム」のワークショップを 2005 年 2 月 22 日に兵庫県民会館で開催した。河村委員が、挨拶および総説を行った後、谷本委員(九州大学)が人間の社会行動解析ヘジレンマゲームの応用、奥委員(北海道大学)がセル・オートマトンを用いた住宅地の再配置計画、朝山委員(東京電機大学)が都市の成長解析、新宮委員(日本大学)が可変剛性構造物のファジィ制御、堤委員(芝浦工業大学)が感性を評価した屋根形態創生システム、藤井委員(東京工業大学)がデザインの論理的観点と非論理的観点を結合する 2 層モデル、瀧澤委員(京都大学)がマルチエージェントを用いた都市のシミュレーションについて講演した。また本小委員会以外からのメンバーとして、谷明勲知的システム小委員会委員(神戸大学)が知的ファジィ最適アクティブ制御システム、山邊友一郎氏(神戸大学)が多重最適化による耐震補強計画の設計支援システムについて講演を行い、河村委員が全講演の総括を行った。 <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>本小委員会 4 年間の活動のまとめとして、刊行企画書「複雑系と建築・都市・社会」が年度末付けで出版に至り、河村委員を研究代表者とした科学研究費補助金「複雑系科学による人間・環境に適応する建築・都市・社会のデザインシステム」による研究が 3 年間で成果をまとめ終了した。また、この間、シンポジウム 1 回、情報・システム・利用・技術シンポジウムにおける研究集会 3 回、大会研究協議会 1 回を開催した。しかしながら、上記の刊行企画書が編集方針の確認や原稿の収集と校正に手間取り、刊行が遅れた点が反省されるので、達成度は、当初の目標の 80%位と思われる。</p>
その他評価すべき事項	